

こころざし



発行・編集
 深谷市教育委員会学校教育課
 〒366-0823 埼玉県深谷市仲町11-1
 TEL:048-572-9578 FAX:048-580-3260
 E-mail gakkou@city.fukaya.saitama.jp

令和4年度全国学力・学習状況調査結果より

調査結果(国語、算数・数学、理科)

校種	小学校(6年)			中学校(3年)		
	深谷市	埼玉県	全国	深谷市	埼玉県	全国
国語	67	67	65.6	69	70	69
算数・数学	62	64	63.2	49	52	51.4
理科	66	65	63.3	48	49	49.3

※ 平均正答率(%)

小学校では、国語は国を上回り、理科は国・県を上回りました。算数・数学はもう一歩という状況でした。

中学校では、国語は国と同等、数学と理科に関しては、国・県を下回った結果となりました。

算数・数学もあと1問多く正答できれば、国・県を上回るよ!



児童・生徒質問紙より

校種	小学校(6年)			中学校(3年)		
	深谷市	埼玉県	全国	深谷市	埼玉県	全国
国語の授業の内容及よくわかる	89.9	85.8	84	86.4	81.7	81.2
算数・数学の授業の内容及よくわかる	87.4	82.1	81.2	80.8	74.8	76.2
理科の授業の内容及よくわかる	92.5	90	88.5	78.8	74.9	75.2

※ 「あてはまる」「どちらかという、あてはまる」をあわせた割合(%)

すべての教科において、「授業の内容及よくわかる」児童生徒の割合が高い結果となりますが、算数・数学では、正答率との食い違いが見られ、大きな課題となっています。

授業はよくわかるけれど、学力は本当に身につけているだろうか…



正答率と質問紙から見える深谷市の子どもたちの課題

中学校3年数学 問題1 より

問題	正答率(%)		
	深谷市	埼玉県	全国
42を素因数分解しなさい	40.5	49.1	52.2

左の問題は、中学1年生で学習した基本的な問題ですが、国・県より正答率が約10%も低い結果となっており、その原因として素因数分解という数学的操作の意味を『**わかっていない**』ということが判明しました。基礎基本の確実な定着が課題となります。また、質問紙調査では、「授業内容及よくわかる」という結果を示していますが、簡単な問題にいつも取り組んでいて、難しい問題にチャレンジしていない実態があるかもしれません。新しい問題にチャレンジし、「思考・判断」をめぐる解いていく経験の積み重ねが、「思考力・判断力・表現力」を育成し「確かな学び」につながっていきます。

「覚えた」から「わかった」へ

「覚えた」ことは時間が経つと忘れてしまいますが、「わかった」ことはいつもまでも忘れません。人は、新しい課題に出会ったとき、様々な思考・判断をめぐることで、今までに身につけた知識や経験と結びつけます。そのときに「わかった」という状態となり、わかったことはもう忘れません。「覚えた」ことを「わかる」ようにするためには、基礎基本をふまえながら、それを生かすために**くり返し、くり返し問題に挑戦**することが大切となります。

何事も基礎基本が大事だよ！
 難しい問題にもチャレンジ!



1問、1問の積み重ねが学力をあげていくよ!



学力向上のカギは定着にあり!

『学習した内容をくり返し学んでいくこと』が、『学習内容の定着(=わかった)』につながっていきます。「学力向上プロジェクト」を毎月実施し、一人一人を見届け、粘り強く取り組む児童生徒を育成します。

豊かな学びのバックグラウンドに環境あり!

あらゆる勉強で「**問題を読み取る力**」がポイントとなってきます。豊かな学びのバックグラウンドが大切であり、ご家庭で本や新聞に触れる時間を設け、「自分で考える力」を伸ばしていきましょう。

中学校部活動の今後の在り方

☆ 国における部活動の地域移行に向けた動きが示される中、各自治体が部活動の今後の在り方についての検討を始めました。

<改革の方向性> (スポーツ庁・文化庁への検討会議提言より)

- ・ まずは、**休日の活動から段階的に地域移行** (平日:学校 休日:地域)
- ・ **目標時期は、令和7年度末**
- ・ 地域においてスポーツや文化芸術に**親しむ機会を確保し**、生徒の**多様なニーズに合った活動機会を充実**
- ・ 地域のスポーツ団体や文化芸術団体等と学校との**連携・協働の推進**



<背景>

- 少子化に伴い生徒・教員・学校の数が減少 ⇒ これまで同様の部活動の存続が困難
- 休日を含めた教員の部活動指導 ⇒ 教員の働き方改革が必要

<深谷市の実態>

☆ 生徒数の激減

4465人(H18) ⇒ 3671人(R4) ⇒ 3471人(R8)

⇒ これまで同様の部活動の存続が困難

☆ 教員の時間外勤務の増大

時間外勤務(月45時間超)の割合(中学校):68.0%(R4.6月)

⇒ 教員の負担軽減が必要

~深谷市における今後の方向性~

- 適正な部活動の数や一週間の時間割の工夫などを検討
- 学校関係者(教職員や保護者)や地域のスポーツ・文化団体の代表者と部活動の在り方の協議



OECDの調査(2018)では、加盟国など世界48カ国中、日本の中学教員の仕事時間は最長で、中でも部活動など「課外活動の指導時間」が圧倒的に多いことが明らかになっています。

かけがえのないいのち…。 かぎりあるいのち…。

「いのちを大切にする心」を育む

たったひとりしかない自分。自分らしく生きる。

【立志】

かがやく

【忠恕】

自分の

他者の

いのち

受け継いだ

与えられた

深谷市では、かねてから『立志(夢とこころざし)と忠恕(まごころと思いやり)の深谷教育』の根底に、「心の教育」の充実、特に「いのちを大切にする心」の育成を据え、さまざまに取り組んできました。

このような中で、痛ましい事件・事故が起り、あらためて、子供たちが「いのちの大切さ」や「生きることの素晴らしさ」を実感する時間をつくりたいと願っております。

学校では今後も、校長講話、道徳を中心とした各教科等の授業などをとおして、子供たちの心の琴線に触れるような指導を進めてまいります。

「いのち」とは… ～生かされている・願われている～

人は誰も皆、自分の意志でこの世に生を受けたのでもなければ、また、自分の意志でその生を生き続け得るものでもありません。

このいのちの不思議さに思いをいたし、かけがえのないいのちを自覚し、大切にしていこうとする子供たちに育ってほしいと願っています。

♡♡♡ この「いのち」、精一杯輝かせよう！♡♡♡

「いのち」に関連した作品やエピソードは数多くあります。

家庭でも、図書館や図書室の本などを通して、「いのち」にふれ、話し合う時間などをつくってもらえたらと思います。

「いのち」についての校長講話



自分も、みんなも、だれもが大切にされるべき存在。共に生きる喜び。

↑ 常盤小学校 学校図書館の1コーナー より

